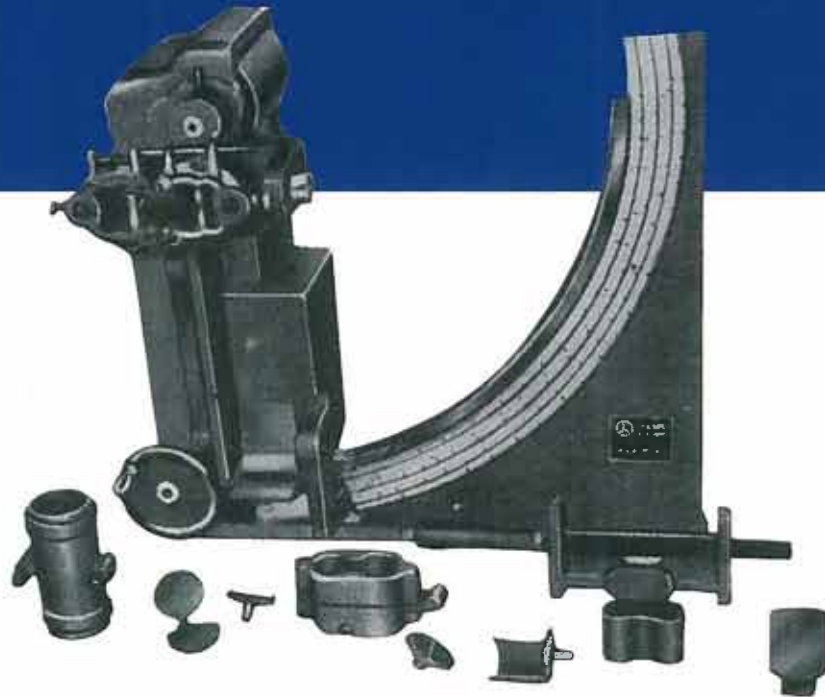




Universal Sand Strength Machine

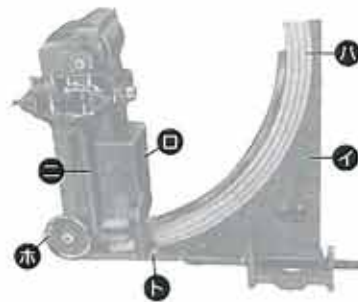
万能鑄物砂強弱試験機

NKU 型



本機は生型、焼型、中子結合剤及び粘土の応圧力、剪断力及び中子の抗張力及びその他鑄物砂の有するあらゆる強度を測定するものです。

また、最高精密度を有し使用簡便、耐久的に製作された試験器で、大略、(イ)床盤、(ロ)振り錘、(ハ)強度目盛板、(ニ)加圧用腕金、(ホ)手動輪、(ト)磁製鉄片、水準器、及びその他試験用附属品数種類などの主要部より成り立っています。



仕様

高さ 514mm  
床面積 557mm×315mm

能力

生型応圧力 1.32kg/cm <sup>2</sup>	焼型剪断力 5.20kg/cm <sup>2</sup>
焼型応圧力 6.60kg/cm <sup>2</sup>	中子抗張力 20.80kg/cm <sup>2</sup>
生型剪断力 1.04kg/cm <sup>2</sup>	中子結合剤 20.80kg/cm <sup>2</sup>

# 万能鑄物砂強弱試験機



## 生型、焼型、中子に対する試験法

試験器を平面なコンクリート台、或は堅固な木台の上に固定させ床盤上に設置した2個の水平調節捻子を調節して水準器を合せて振り錘(口)を水平の位置に置きます。これは(口)の端部に取付けられたアルミニウム製の押腕(サ)強度目盛板(ハ)の零点の線を一致させることによって容易に振り錘(口)の水平位置を見出し得ます。次に移動指示鉄片(ト)を(サ)に密着させます。この時回転把手(ホ)を反時計式に回して押腕(ニ)を最端部の位置に置くことが必要であります。移動指示片(ト)は永久磁石鉄片になっており、鑄砂試料の破壊瞬間時に於ける所要の強度を正確に指示保留する役目をします。

### 1 生型、応圧力試験

この試験には押金(オ)および(ワ)を用い、両押金のウラのツツ部を図の如くオウ部(タ)に挿入し、両押金表面に突出している2つの爪を同一高さに合せます。(この時2個の押金の内、頭の自由に動くようになっている方を左方即ち押腕の方に取付ける方が操作に便利です。)この押金(オ)及び(ワ)の間に搗固器にて造った規定の試験片を挿入し、4つの爪にて保持させ移動指示鉄片(ト)の設置を終れば把手(ホ)を握って時計式に回転し押腕(ニ)を押上げます。即ち試験片で振り錘(口)を押し上げることになります。即ち把手(ホ)の送りに比例して振り錘の荷重が次第に試験片に対して加重され試験片が(口)の重さに耐えられなくなった瞬間砂は破壊され、その時磁気鉄片(ト)を残し、振り錘(口)及びその先端の押金(サ)は後退します。こうして残された磁気鉄片による強度の読みは強度目盛板上、GREEN COMP(生型応圧力)目盛で読み(kg/cm<sup>2</sup>)として表わします。

### 2 生型剪断力試験

この試験を行う時は挿図中の(カ)及び(ヨ)を用います。即ち(カ)を押腕(ニ)の方に(ヨ)を(タ)の中に嵌込みノックによってこの押金の正確な位置を保持するのに製作されています。この試験附属器具は試験片の丁度1/2の箇所を段違いになった所の刃で押し剪断する働きをします。試験片を両者の間に挿入し把手を回す操作は応圧力試験の場合と同一であります。強度の読みは最下部GREEN SHEAR(生型剪断)上の目盛によって読み取ります。

### 3 焼型応圧力試験

挿図におけるボールド(ル)及び(ア)を取除き取付腕金具及び抗張力試験器具(フ)及び(ケ)を取除くと焼型試験片を挿入する場所が得られます。こうして押金(オ)及び(ワ)をボールド(ア)及び(ル)を取除いて得た孔に嵌込み試験片を挿入する操作は生型の場合と同一であります。この場合の目盛の読みはDRY COMP(焼型応圧力)上に刻まれた目盛りにて読み取ります。



株式会社

ナカヤマ

■ 本社 〒451-0066 名古屋市西区児玉3丁目37-22  
TEL.052-521-1171(代表) FAX.052-521-1180  
E-mail info@nakayama-meps.co.jp

■ 公式サイト <http://www.nakayama-meps.co.jp/>  
■ 東日本営業所 TEL.024-545-6588  
FAX.024-544-6588

第1版 2011年7月  
第4版 2016年5月